

こく めい こ 克明の子

学校通信

令和 7(2025 年) 1 月 8 日
発行) 校長 吉川有美子

しんねん すたーと 『新年のスタート』



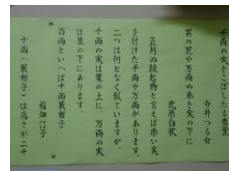
あら とし むか ほごしや ちいき みなさま つつし
新たな年を迎え、保護者・地域の皆様に謹んでごあいさつ
もう ほんねんれいわ ねん ねん さちおお とし
申しあげます。本年令和7年(2025年)が幸多き年となります
ようお祈り申しあげます。

ふゆやす げんき す
冬休みは元気に過ごせたでしょうか。ご家庭でのあたたかいコミュニケーションで、こどもたちの心のコップがいっぱいになって、心がぽかぽかになっていたらいいなあと思います。「ありがとう」「あなたが大切」「あなたがいてくれてよかった」など、優しいことばかけやいっしょに楽しい時間を日々の生活の中にもぜひ続けていってください。

しんがつき こ もくひょう た おも し じ き ふた
さて、新学期子どもたちは、それぞれ目標を立てると思いますが、この時期には二つの目標があると思います。一つは、3学期はまとめの学期であることから、「次は〇年生なので、3学期は何を頑張ればいいのか。」という目標です。もう一つは、新年であることから、1年間を見通してもう少し大きな目標「今年はどうでしょうか。」という目標です。時の流れの中でやってくる「節目」に、思いを新たにすることは、これから成長していく子どもたちにとってとても大事なことです。新たな目標へ少しずつ積み重ねていく努力を継続して行ってほしいと願っています。

がつき きかん どうじ じゅんび きかん こ
3学期は、まとめの期間であると同時に、これからの準備もする期間です。子どもたちが、一日一日を大事にし、4月から身に付けてきたことをさらに定着させ、次へのステップが踏めるように、教職員一同努力して参りますので、保護者の皆様、地域の皆様、ご支援のほどよろしくお願い申しあげます。

しず もじ ぶん げいじゅつ 静かにそっと、文字と文の芸術



こうちょうしつ まえ けいじばん つき いっかい ペース さくひん
校長室の前の掲示板ですが、月に一回くらいのペースで変わっていく作品があることを
ご存じでしょうか。今、「150TH」のPTAの皆様からの贈り物のバルーンがあるちよ
ど下です。横長の紙に美しい筆の文字で書かれた心洗われるような文章に、文章に合
った写真が添えられています。この作品は、豊中市の元教員で、50年くらい前にこの克明
小学校にもおられたことのある「●●★★さん」という方が製作されていて、毎月掲
しに来てくださっているのです。それはもう15年近く続いています。来校の機会には、ぜひ、
ご覧になってみてください。

こうかいけんきゅうはっぴょうかい 公開研究発表会



らいげつ がつ にち ほんこう こうかいけんきゅうはっぴょうかい ひ
来月、2月●日は、本校の「公開研究発表会」の日です。
こくめいしょうがっこう なかま う い きょうかん ちから じぶん きも だ つた
克明小学校では、「仲間を受け入れる共感できる力」「自分の気持ちを出せる伝える
力」を育てながら、仲間とつながり、自分をみがき夢を持つことができる「ぽか
ぽかな子ども」を目指しています。ぽかぽかな子どもとは、差別のない社会をつ
くり、よりよく生きることができる子どもたちです。学年ごとにベースになる学習の
ねらいがあります。

ちか くわ あんない ぼんしょう く あ うえ さんかん
また、近くなりましたら詳しくご案内いたします。万障お繰り合わせの上、ご参観
いただきたく存じます。講演会には、「翼」の施設長である
どいさとこさま むか いっしょ はなし き
土井聡子様をお迎えしています。ぜひ一緒にお話を聞きましょう！

ひ と く ～おむすびの日の取り組み～

はんしん あわじだいしんさい ひ ことし ねん ねんかん にほんじゅう
阪神・淡路大震災の日から、今年ちょうど30年です。この30年間、日本中
がこの日を忘れたことはありません。克明小学校では、毎年この日に地震避難
訓練をおこなう。給食の時間には、おのおの給食で配膳された自分のご飯で、
ラップを使っておむすびを作ります。

「おむすびの日」は、阪神淡路大震災で、ボランティアの炊き出しにより被災さ
れた方々へ多くのおむすびが届けられたことから、2000年に人と人の心を
結ぶ「おむすびの日」とされました。

ひなんくんれん とお いのち まも こうどう かんが つく ひさい
避難訓練を通して命を守る行動について考え、おむすびを作ることで、被災
された方々へ思いを馳せたいと思います。昨年の元日には能登半島地震が起
りました。2011年3月11日の東日本大震災では2万人以上の方々が犠牲
となり行方不明となりました。忘れてはいけない日は増えないでほしいです。
わたし さいがい そな かんが
私たちは、災害と備えについてしっかりと考えていかなければなりません。

